

2015年(平成27年)1月30日発行

発行者:大阪府釣りインストラクター連絡機構 本部:大阪府東大阪市中小阪1-5-20 tel06-6729-9485 fax06-6729-9457 (編集責任者:広報部萱間)



次なる釣りを知ること

J O F I 大阪会員のみなさま、平成 26 年度も、水産多面的効果発揮事業を中心に数々の行事へのご協力、誠にありがとうございました。

わたしたちのボランティア活動の中核であった「大阪南港魚つり園」が廃止になり「釣りをしてもかまわない港湾緑地」にかわって一年が経過しました。しかしこれも台風や大西風が吹く度に安全柵が破損して目下休園中の状態です。このため J O F I 活動や役員会等の根拠地が失われ、みなさまがたに多大のご不自由をおかけしていることをここからお詫び申し上げます。昨年末以来新しい基地作りのための準備にとりかかっていますので、いましばらくお待ちください。

また、今年度も引き続き「水産多面的効果発揮事業」を行うことがほぼ確実です。各漁協で地元の漁師さんたちと協力して漁村文化継承のためのイベントを実施するほか、秋には大阪府の水産関係者を挙げてのフォーラムを開催することになります。フォーラムの内容等の企画については未定ですが、これまでの2か年の総仕上げとして、充実したものにせねばとの思いです。そのほかにも、アマモ場推進、稚魚放流、海浜ゴミ収集などを予定しています。みなさんお協力のおかげで、地元阪南の漁港の人々が釣り人に向ける視線もずいぶん理解のあるものになってきています。ぜひ積極的な協力をお願いしておきます。

さて、J O F I 大阪いま一つの活動として水産庁の助成による「釣り場保全調査」があります。会員のみなさまにはあまり知られていませんが大阪市の港湾や府下の釣り場に指導巡視に出られた際に安全対策の有無や駐車場の状態、釣り人の動向、対象魚種、ゴミ、ライフジャケットの着用状態その他をチェックリストに記入して送ってもらう仕事です。

仕事が忙しく、事業に出る機会の少ない会員のかたでも、釣りに出かける機会は多いと思います。あらかじめ事務局と打ち合わせていただいた上で H P からチェックリストを刷り出して記入の上 F A X で送っていただく簡単な仕事です。

これを記入することで、意外に釣り人の動向を知ることができるのではないかと考えています。例年7月から12月が助成事業としての時期ですが J O F I 大阪では周年調査を集計しています。ご協力をお願いします。

来田仁成 (大阪府釣りインストラクター機構代表)

ところで、最近の釣りの話題です。昨年サビキ釣りのアジ、イワシ、サバの回遊が不安定だった上、タチウオまで食いにむらが多かったあとを受けて、波止釣りファンの間になんか嗜好の変化が顕著になってきました。

アジング、メバリング、エギングの層がどんどん広がっているのです。

これまで、サビキ釣りをマスターした人々が次に目指すのはチヌ釣りであり、ハネ釣りだったのですが、ここ数年、サビキがオフの時期に湾内で2年、3年ものの居残りアジを狙ったり、寒い時期にメバル、ガシラを狙ったりする人が増え、それにつれて、使用する竿やリールもかわってきました。波止釣りに入門する人たちを指導する役割の釣りインストラクターのみなさんにも、このあたりの予備知識ある程度知っておいてもらわないと話が通じない事態が生じる可能性があります。

要は 2.3 メートルくらいの軽いアジングやメバリングロッドに、0.5 号くらいの P E ラインを巻いた小型のスピニングリールをつけ、0.8 グラムから 3 グラムくらいの軽いジグヘッド(小型のテンヤを改良したものと考えていただいて結構です)に小さなワームを刺したもので投げたり探ったりする釣りです。同じ道具立てでサビキ釣りもできるから、入門者にもおすすめです。

同じ道具でガシラ、カイズ、ハゼ、セイゴなど近郊の小物釣りなどなんでもできるわけです。

横文字に拒絶反応を示すことなく、まず興味を持って自分の釣りに組み込んでみることで、釣りインストラクターのみなさんには、そうした柔軟な思考が必要ではないかなと思ったります。

ところで、大阪港の立ち入り禁止問題のショックがどうやら釣り人の記憶がどうやら遠いものになったらしく、ライフジャケットの着用率がやや下がっているのが気になります。子供たちに着用させる率はあがったものの、親たちまでは至らないというのが実情かもしれません。そういう風景をみたら、まず子供たちを褒め、そのあと、御両親もねというふうにするのも一案かと思っています。

みなさんのますますの活躍に期待します。

報告1

みらいずバリアフリー釣り大会 (H26-10/8)

10月18日、恒例のバリアフリー釣り大会がありました。JOFI大阪より6名が応援。先週、先々週と台風の襲来で大荒れでしたが、今週は天気にも恵まれました。参加者は障害者の方々やヘルパーさん、ボランティアの方々あわせて30名余り。午前中は自由に釣りをし、昼食を挟んで、午後からはチームに分かれて、釣った魚の総数で競い合いました。午前中はアジが釣れ、午後はほとんどスズメダイで

した。小さい魚でこんなに盛り上がるものかと感心しました。釣れた魚を唐揚げにしたり、魚拓をとってもらったり、参加者の笑顔がとても印象的でした。それにしても、淡輪ヨットハーバーのご協力に感謝するばかりです。こんな広大で安全な場所はなかなかありません。(南野)



報告2

大阪府民ファミリー海釣り大会 2014 (H26-10/26)

10月26日、舞洲シーサイドプロムナードで行なわれた「ファミリー海釣り大会」は、晴天に恵まれ、家族や釣り仲間120名もの参加者で開催されました。早朝から場所を確保して釣られている人も多数おられました。水質調査をしましたが、海底水温も23度、溶存酸素濃度も良好で良く釣れる状況でしたので、やはり参加者の大きな喜びの音がアチコチで聞こえ、チヌやキビレ、アジ、サヨリ、サバそしてイソギンボウ等が釣れました。

表彰式では、チヌの部上位を一家族が独占されたり、26cmもある大アジやサヨリ、サバなどを釣った人が上位入賞して商品を

抱えて大喜びでした。今回初めての試みで「魚拓教室」を開催しましたが、予想していた以上に多くの方が受付に並ばれ、子供との一日を記録に残すためにも非常良いイベントだと言っていたき今後も続けていきたいと思いました。(物部)



報告3

大阪市青少年指導員連絡協議会魚釣り大会 (H26-11/9)

11月9日、舞洲シーサイトプロムナードで行われた大阪市青少年指導員連絡協議会主催の中学生親善魚釣り大会、今年は秋雨の中の釣り大会となりました。参加者は81名。雨の中に関わらず子供たちはサビキ釣りに熱中し、親とリーダーは熱心に子供をサポートしていました。釣果は一部の場所のみでアジが釣れましたがそれ以外の場所では釣れませんでした。私たちは実釣指導のほか、安全指導、魚拓教室、水質調査など、釣りマナーと環境保全の啓蒙活動を行いました。釣果はアジ18cm前後30匹ほどでした。(石川)



第12回 魚庭の海づくり大会 (H26-11/2)

11月2日、岸和田市の浪切ホール祭りの広場にて「第12回 魚庭の海づくり大会」(主催:大阪府漁業組合連合会)が開催されました。天候にも恵まれ、来場者はおおよそ5千人、たいへんな賑わいでした。地元海産物が安く買えて、その場で食べられるのは嬉しいものです。また高校生のダンスやブラスバンドなどのイベントも大いに盛り上げてくれました。わたしたちは大阪府漁連のブースを借りて「水産

多面的機能発揮事業の啓発活動」を行ないました。釣り人団体として参加できたことを嬉しく思います。(萱間)



第2回 釣りと漁村文化フォーラム (H26-11/3)

11月3日、岸和田市波切ホールにおいて「第2回 釣りと漁村文化フォーラム」を開催しました。参加者は130名、フォーラム後半は席が足りなくなるほどの盛況となりました。

最初にポスターセッションの紹介があり、第一部がスタート。基調講演として「大阪湾の環境変化と再生」というテーマで大阪府立大の上甫木昭春教授が、漁業と文化と生活をキーワードに解説されました。続いて水産多面的事業活動の発表があり、釣り人グループで取り組んだ「漁村文化学習会」については、JOFIの小川俊幸・室井正行が発表しました。「アママ場保全活動」をCANの岩井克巳氏が、「大阪湾にウミガメがやって来る」を大阪湾見守りネットの田中正視氏が発表しました。

第二部は「食のプレゼンテーションと試食」。春木漁協から「しらす佃煮」、尾崎漁協から「ハモの天ぷら」に追加でワカメ佃煮ほか色々出してもらいました。西鳥取漁協は「タコの唐揚げ」、下荘漁協から

は高級食材「クマエビ」の湯引きが紹介され、来場した方々に振る舞われました。すべてこの時期が最も旬の食材で、地元大阪湾産の奥深さをあらためて知りました。また解説は漁師さんと魚の先生鍋島靖信氏のダブル解説でとても面白い内容でした。

第三部は「大阪湾の幸シンポジウム」。漁師さんをはじめとしたパネラーと会場で「大阪湾の為にできる事」を意見交換しました。(フォーラムの内容は冊子にまとめているのでホームページからご覧下さい→<http://osaka-yutakanaumi.org>)

水産多面的機能発揮対策の本旨を確かめるとともに、漁村文化、水産資源、自然環境を守ろうという人のつながりを、このフォーラムでようやく形にすることができました。来年度は3年目の仕上げる年になりますが、釣り人の方々の意識改革やマナー向上も含めて、なんとか成果を残したいものです。(萱間)



漁師さんといっしょに「漂着物回収処理」(H26-11/16)

11月16日、大阪湾の自然海岸を守ろう！と、阪南市3地区の海岸で「漂着物回収」を行いました。平成26年度の水産多面的機能発揮事業ですが、私たち釣り人が参加する意味は、地元の方々や漁師さんだけではなく、広く大阪府民や釣り人に呼びかけることにあります。ただ、ここ数年はこういった環境を守るボランティアへの市民参加は急に少なくなってきています。大きな災害に対しての不安等が大きくて、近所の自然環境や第一次産業の重要性が忘れられているのではないかと感じますが、今回もがんばって、ポスターやチラシを作って配布しました。その結果、釣りや山だけでなく、自然

が大好きという人たちのつながりが、また新しくできてきたように思います。今回の参加者は3地区で68人。漁師さんと一緒に作業をさせてもらって、地元の方々の苦情をお聞きできたことが良かったと思いました。釣り人の方にはお願いしたいことは、釣りに行ったら「行った時よりもきれいにして帰ってほしい」ということです。「釣りに行けば行くほど釣り場がきれいになる」そういうことでなければ、釣りは社会から受け入れてもらえる遊びにはなれないでしょう。これからもまたご参加よろしく願いいたします。(萱間)



八幡釣り教室 (H26-9/14)

この度9月14日平成26年度やわたフィッシングスクールはすばらしい秋空のもと皆様のご尽力により盛大に無事開催できました。教室は、幼稚園児から少年生年おじいさんまで29名の方々が参加されました。(吉川)



公認釣りインストラクター講習会と試験 (H26-12/6-7)

今年度の講習会と試験は、ヒューマンアカデミー大阪校で、12月6～7日に開催。鹿児島や千葉、岐阜、岡山県からの参加者もあり29名で実施されました。全釣り協・綿井良隆氏の挨拶から始まり、講義が開始。「漁業法など遊漁に関する法令と漁業調整規則の知識」では、大阪府環境農林水産部水産課笹島雄士主査に講師をお願いしました。二日目の講義では JOFI 大阪来田仁成代表の「安全知識と釣りに関する諸問題」に関心があった人が多かったように感じました。

筆記試験と論文試験へと進んで行き、最後の実技では針と糸との結びに苦労されている方もおられましたが、全てが終わった後は笑顔をみせながら帰られました。(物部)

